



# 千林商店街の歴史

【担当】 畑崎 保三

## 大坂北東部に生まれた千林商店街

北河内地方に接する大阪市北東部の古市地区に京街道と野崎街道の交差したところで、古くから賑わっていたが、明治43年に京阪電車が開通したことにより、明治45年頃に北河内地方の生活必需品などの商品を扱う店が多くなり、千林商店街として位置付けられた。

## 都市計画と道路整備による商店の発達

大正後期から昭和初期にかけて、大阪市の都市計画により国道1号の整備と、市電の守口までの延長、京阪電車の軌道移設などにより古市地区の道路が整備され、現在の千林商店街が形成され、更に今市商店街、大宮商店街、そして森小路商店街の連携により、集客力の大きい商店街へと発展した。



## 隆盛期を迎えた千林

戦後、戦災を免れた千林商店街は商業活動が早く、娯楽施設(映画館、ゲーム館)が乱立して賑わうとともに、商店では「品物の豊富さ」と「安さ」で、更に全天候型のアーケードをいち早く設けるなどで人気を得て、京阪沿線や旭区外からの買い物客を引き寄せる魅力と、吸引力を発揮した。この頃に日本で初めて「主婦の店ダイエー」の一号店が誕生し、より商店街を活気付けた。

## 量販店を凌いだ千林商店街

レジャーの多様化とテレビの普及にともない映画館が衰退すると、これに変わってスーパーやパチンコ店の進出で量販店(スーパー)と小売店が共存共栄する商店街となる。その後、量販店の流通の変化で量販店が撤収されて、「商品の豊富さ」と「安さ」の商店街として活発に発展し、現在に至っている。



■昭和13年頃の千林商店街(写真:(財)大阪市都市工学情報センター)

# 千林商店街のあゆみ

## 1. 千林商店街の萌芽期(明治18年～大正13年)

- ① 淀川の改修と京阪電鉄の開通(明治44年)
- ② 千林地区に森小路駅の設置(明治44年)
- ③ 公設市場の開設(大正9年)
- ④ 織布関連工場と人口の増加

## 2. 千林商店街の形成期(大正14年～昭和10年)

- ① 大阪市の都市計画と着工
  - イ. 国道1号とそれに関する道路と住宅地の完成
  - ロ. 市電の延長と京阪電鉄の軌道移設(昭和6年)
  - ハ. 運河の着工
  - ニ. 公園の新設(城北、新森公園)
- ② 京街道、国道1号につながる商店街との連携  
今市商店街、大宮商店街、森小路商店街など

## 3. 千林商店街の発達期(昭和11年～昭和20年8月)

- ① 商店街の幅員の拡張
- ② 旭区行政、商業の中心が国道1号に集中
- ③ 商店街における組織団体の発足
- ④ 運河の完成と工場の増加
- ⑤ 私設市場の登場
- ⑥ 第二次大戦中の物資統制による商業不安

## 4. 第二次大戦後の復興と千林商店街の隆盛 (昭和20年9月～昭和40年)

- ① 公設市場に再開(森小路)
- ② 千林森小路商店街組合の発足
- ③ 戦災にあった他地区からの小売業者の転入
- ④ 鈴蘭灯、ネオンの復活
- ⑤ アーケードの完成(昭和33年)
- ⑥ 衣料品店の増加
- ⑦ 主婦の店ダイエーの出店(昭和32年)
- ⑧ 娯楽施設の増加と買い物の連動
- ⑨ 映画館の衰退とスーパーの乱立

## 5. スーパーと共存共栄を目指した商店街の活性化

- ① アーケードの新設と架け替え
  - 第1回 新設 天幕式(写真①) 1958年(昭33)
  - 第2回 架け替え 電動ルーバー式(写真②) 1966年(昭41)
  - 第3回 架け替え 電動ドーム型(写真③) 1984年(昭59)
  - 第4回 架け替え ドーム型(写真④) 2003年(平15)
- ② テラゾー舗装工事
- ③ 森小路公設市場と千林市場をくらしエール館として新発足

## 6. 千林商店街におけるスーパーの動向

- ダイエー 1957年(昭32)～1984年(昭59)
- イズミヤ 1961年(昭36)～1970年(昭45)
- ニチイ 1963年(昭38)～2002年(平14)
- 長崎屋 1967年(昭42)～ ?
- トポス 1984年(昭59)～2005年(平17)



■写真① 初代アーケード  
(昭和30年代中頃の千林商店街)



■写真② 2代目アーケード  
(昭和56年の千林商店街)



■写真③ 3代目アーケード  
(昭和59年の千林商店街)



■写真④ 4代目アーケード  
(平成19年の千林商店街)

※写真①～③は「元気のある商店街の形成 千林商店街とその周辺 石村眞一著 東方出版(株)発行」より転載。「千林商店街のあゆみ」も同書を参考に作成。